

未利用植物の染色材としての基礎試験

杉尾孝一, 仁科勝海, 間世田春作

この事業では、県内の未利用植物を染料として、有効利用するための研究を行った。

- (1) 大隅半島にコアラの飼料として栽培されているユーカリの葉, 枝, 皮
- (2) 県の産物であるサツマイモの葉, 茎, イモ
- (3) 県内の葛デンプン工場からでる葛の根
- (4) 屋久杉を製材する時に出るオガクズ

以上のものが未利用植物として豊富にあり、入手することが容易であることがわかった。

そこで、本年度はこれらの植物から色素を抽出する方法や抽出成分の検討、染色物の色相と染色堅ろう度についての基礎試験を行った。その結果、抽出するための最適温度や時間、浴比などをみつけることができた。また、金属塩（アルミ、スズ、銅、鉄）と結合して、金茶、オリーブ、灰、黒などに発色した。これからみて、染料としての成分が多く含まれており、染色堅ろう度（耐光、汗、摩擦）も良好なものも多く、利用価値が高いことがわかった。今後、絹をはじめ各種繊維への染色法について試験研究を行っていく。